

まちの話題



「九州はひとつ」プロジェクト 植木中学生が活躍



12月6日から、九州高速道路古賀サービスエリア（下り）で、植木中学校2年生のアイデアが商品化された、「九州鯖っちゃんお丼」が販売されています。

社会科の授業で「九州地方」の学びを広げるために、九州の地域的特色を取り入れたオリジナル丼を



作成しました。また、様々な販売促進グッズを作る過程では、英語や美術、技術・家庭などに学びを広げ、学校全体で取り組みました。12月11日には、植木中学校の生徒14名が、現地で販売のお手伝いに参加しました。自分たちのアイデアが形になった商品を間近に見た感動や、お客様から「おいしい」といってもらえた喜びは、これからの社会を作っていく子どもたちにとって貴重な体験になりました。

丼は3月まで販売予定です。お近くを通られた際にはぜひお召し上がりください！

2021年ふるさとの川や海絵画展

12月18日、19日に「ふるさとの川や海絵画展」がイオンモール直方2階イオンホールで行われ、来場した家族連れのみなさんでにぎわいました。直鞍地域の小学生がふるさとの自然や環境を思い描いたもので、どの作品も楽しくきれいに描かれていました。



子どもたちがプログラミングに挑戦

これからの子どもたちに必要とされるITの力を養うため、「次世代キッズプログラミング教室」が11月28日、12月5日、26日に開催されました。これは直鞍次世代産業研究会が主催する地域貢献活動の一環で、地域を担う子どもたちの創造力を培う取り組みです。

参加したのは直鞍地域の小学4年生から6年生までの児童で、計3回の教室を開催し、鞍手高校SSH部の協力のもと楽しくプログラミングを学びました。最終回では、参加児童が制作したプログラミングの発表が行われ、ロボットカーの操縦などを実践しました。この教室が、未来を担う子どもたちにとって、ITに興味を持ち、より高度な知識の習得や自己学習のきっかけとなることを願っています。





児童たちが環境学習

「ゴミのポイ捨てをしない」

12月27日、植木学童クラブの児童たちが環境学習を行いました。

これは市の環境活動の一環で、子どもたちが楽しみながら無理なくできる活動を行い、普段の生活に取り入れていく取り組みです。

子どもたちはスライドで、ゴミのポイ捨てなど身近な問題を学習したあと、森の生き物たちの食物連鎖を学ぶカードゲームを行いました。

子どもたちは「ゴミのポイ捨てはしない」、「落ちているゴミは拾う」など約束してくれました。



道路功労者表彰受賞

12月23日に令和3年度福岡県道路功労者表彰式が直方県土整備事務所で行われました。受賞者は、頓野の「(いつも清潔なみち) 直方バイパス頓野やまものの会」です。

同会は、道路の清掃活動や美化活動を行っている「福岡県さわやか道路美化促進事業」の認定団体として、約20年活動を行ってきました。同会の長年にわたる努力と多大なる貢献が認められ、今回の知事表彰を受けることとなり、表彰式には香原県議会議員も臨席されました。

表彰時、阿部会長は「国道200号建設当時には、環境に関する協議を行い、住民の意見も十分取り入れていただいた。住民としては、その環境をこれからも守っていききたい」と力強く話されました。



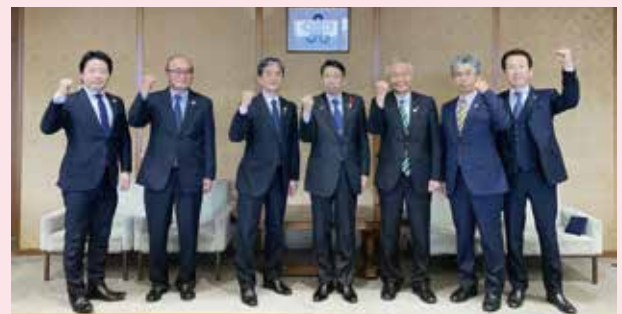
直方・鞍手新産業団地に データセンター誘致を目指します！

本市では、九州自動車道鞍手インターチェンジに近接する直方市植木地区と鞍手町中山地区にまたがるエリアに、長年の課題であった産業団地（通称：直方・鞍手新産業団地）を造成し、データセンターの誘致を目指しています。

国は、データセンターを経済安全保障の観点でも重要なインフラの一つとし、国家事業としてデータセンターの国内立地や新規拠点整備を進めることとしています。この直方・鞍手新産業団地は、大きなデータ需要が見込める福岡市、北九州市の両政令市の中間に位置し、自然災害も少ないため、データセンターの新規拠点として有力な地域となると考えられます。

本市ではこの機会を捉え、福岡県知事および福岡県議会に対し、県事業として産業団地を造成するよう要望を行いました。福岡県もこの要望を受け、早速今年1月から事業に着手しています。

福岡県、鞍手町としっかり連携をして、産業団地の造成事業とデータセンター誘致を進めていきます。



写真左から、花田県議、星鞍手町議会議長、岡崎鞍手町長、服部県知事、大塚市長、中西市議会議長、香原県議

※データセンター…インターネット用のサーバやネットワーク機器を設置するためにつくられた建物のこと。



市のホームページでは、
この他の話題も公開しています。